

# 課題解決型研究を推進するための 超学際のあるり方に関する研究会 ～診断から治療へ～

日時：2020年2月21日（金）

会場：千葉大学西千葉キャンパス 松韻会館

千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 最寄り駅：JR総武線西千葉駅

<http://www.chiba-u.ac.jp/access/nishichiba/index.html>

2030年の達成を目標とする持続可能な開発目標(SDGs)が走り始めており、それを科学の側面からサポートするFuture Earth(FE)も始動しつつあります。これは新しい社会のあり方への変革(Transformation)ともいえます。しかし、科学者セクターではFE達成の方法論である超学際(Transdisciplinarity)の実践に対する戸惑いも存在しています。そこで、本研究会では解くべき課題の設定、特にグローバルな課題とローカルな課題の関係、ステークホルダーの同定と関与の方法、成果の社会への実装方法、等および具体的な実践例について議論することを目的とします。

- 09:30 受付開始
- 09:50-10:00 開会挨拶 近藤昭彦<sup>1</sup>
- 10:00-10:30 ①Managing Environmental Risks to Food and Health Security in Asian Watersheds (嘉田良平<sup>2</sup>)
- 10:30-11:00 ②Lessons of Eco-collapsed FUKUSHIMA (小林達明<sup>1</sup>)
- 11:00-11:20 ③オープンサイエンス時代のTD研究 (近藤康久<sup>3</sup>)
- 11:20-11:40 ④自然災害発災後の時間経過に伴う地域生活の課題 (宮崎美砂子<sup>1</sup>)
- 11:40-12:00 討論 1
- 12:00-13:30 昼食
- 13:30-13:50 ⑤Co-designing TD Knowledge Action Projects, insights from the Future Earth Philippine Program (LAMBINO, Ria<sup>3</sup>)
- 13:50-14:10 ⑥TD研究の心得：パターン・ランゲージを使った経験知の発掘と共有 (大西有子<sup>3</sup>)
- 14:10-14:30 ⑦TD研究の心得：ステークホルダーの階層性と研究者の立ち位置 (近藤昭彦<sup>1</sup>)
- 14:30-14:50 ⑧マーシャル諸島核実験被害に関するウェブデジタルアーカイブ構築 (中原聖乃<sup>3</sup>)
- 14:50-15:00 討論 2
- 15:00-15:30 休憩
- 15:30-15:50 ⑨Future Earthにおけるリモートセンシングの役割 (加藤顕<sup>1</sup>)
- 15:50-16:10 ⑩航空レーザー測量データを使用した広域の人工林地位指数の推定 - FE研究の基礎となる技術開発 - (福地孝哉<sup>1</sup>・梅木 清<sup>1</sup>)
- 16:10-16:30 ⑪環境と健康を考えた未来世代のための街づくりGISと疫学調査 (鈴木規道<sup>1</sup>)
- 16:30-17:00 総合討論
- 17:00-17:10 閉会挨拶 近藤康久<sup>3</sup>
- 18:00-20:00 懇親会 (会場周辺にて)

1: 千葉大学

2: 四条畷学園大学 (総合地球環境学研究所名誉教授)

3: 総合地球環境学研究所

主催 千葉大学環境リモートセンシング研究センター  
人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

(旧計画的避難区域である山木屋地区で咲く、双葉町の間貯蔵施設予定地から移植された彼岸花)